

# 令和5年度 学校努力点基本方針

名古屋市立梅森坂小学校

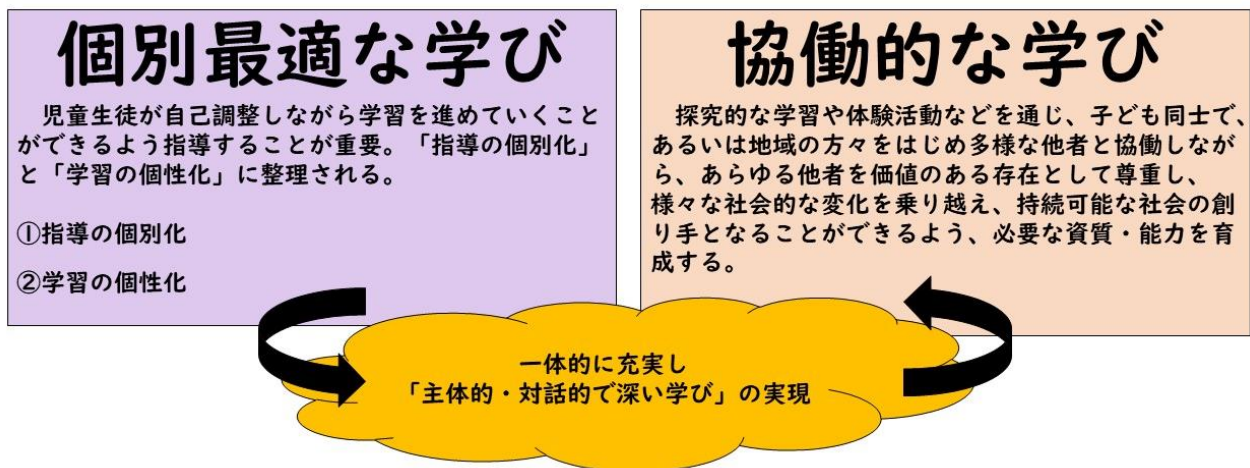
## 努力点研究主題

「なるほど」「いい考えだね」と仲間と学びを深める梅森坂の子ども  
～個別に学ぶ活動に重点をおいて～

### 1 はじめに

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の継続的な感染拡大により、教育を含めた社会環境は大きく変化した。小学校では、令和2年度完全実施された学習指導要領のもと新しい学びがスタートするとともに、GIGAスクール構想が一気に推進され、本校においても1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク環境が整えられた。

このような状況を踏まえ、中央教育審議会では『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が取りまとめられた。その中では「急激に変化する時代の中で、わが国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。」と示されている。学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めるためにICTを最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図ることが求められている。（資料1）



### 資料1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

本校では、子ども同士が考え方を共有し、「なるほど」や「いい考えだね」などと自分の考えを深められるような授業をすることに努めてきた。しかしながら、昨年度までの実践では、「タブレット端末を使って自分の考えや見つけたものを共有することで、学びを深めることができた」という成果があった一方、「自分のペースで学習を進めることには課題がある」という結果となった。令和4年11月に名古屋市で実施された「学習と生活についてのアンケート」においても、「自分で計画を立てて進める授業」については、「好き」と回答した児童が比較的少ない結果となっており、「個別最適な学び」を充

実させる必要があると考える。「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、「個別最適な学び」について「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理され、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することの重要性が指摘されている。また、センター研究でも「個別最適な学び」について研究が行われた。（資料2）

そこで、本年度は、個別に学ぶ活動に重点を置いた実践を進めていきたい。その中でも、ペースや習熟度に応じ、課題や活動を選択して進めることができるようにしていきたい。

**答申**

**①指導の個別化**

全ての孩子に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な孩子により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどが必要である。「指導の個別化」は一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目的とし、個々の児童生徒に応じて異なる方法等で学習を進めることであり、その中で児童生徒自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことなども含む。ICTを活用することで得られる新たなデータも活用し、きめ細かく学習の状況を把握・分析したり、個々の児童生徒に合った多様な方法で学んだりしていくことで、確実な資質・能力の育成につながっていくことが期待される。また、学習履歴（スタディ・ログ）、生活・健康面の記録（ライフログ）等、児童生徒に関する様々なデータを可視化し、学習方法を提案するツールなど、新たな情報手段の活用も考えられますが、そのような新たな情報手段の活用も含め、児童生徒が自らの状態を様々なデータも活用しながら把握し、自らに合った学習の進め方を考えることができるよう、教師による指導を工夫していくことが重要である。

**②学習の個性化**

基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。「学習の個性化」は個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げることを意味し、その中で児童生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったら良いかを考えていくことなども含む。例えば、情報の探索、データの処理や視覚化、レポートの作成や情報発信といった活動にICTを効果的に使うことで、学びの質が高まり、深い学びにつながっていくことが期待される。また、児童生徒がこれまでの経験を振り返ったり、これからのキャリアを見通したりしながら、自ら適切に学習課題を設定し、取り組んでいるよう、教師による指導を工夫していくことが重要である。

**センター研究**

**振り返り**

「感情に目を向けることをきっかけにしたわずか3分間の振り返り」の積み重ねは学習意欲を向上させる。

**自由進度**

興味・関心や学習のペース、習熟度に応じ、課題や活動を選択して進めたことが学習内容の定着につながる。

### 資料2 「個別最適な学び」

なお、タブレット端末の活用については、昨年度に引き続き「梅森坂小学校 タブレット活用30のスキル 段階表」を基に指導していきたい。（資料3）

梅森坂小学校 タブレット活用30のスキル 段階表					
アプリ	No.	操作	低学年	中学年	高学年
A 基本操作	A1	電源を入れる・スリープにする・電源を切る	◎	-	-
	A2	パスワードの入力	◎	-	-
	A3	タップ	◎	-	-
	A4	コピー・貼り付け	-	◎	-
	A5	名前をつけて保存	-	◎	-
B カメラ	B1	写真・動画撮影	◎	-	-
	B2	撮影した写真・動画の閲覧	-	◎	-
C Google Chrome・Microsoft Edge	C1	Webページの閲覧	-	◎	-
	C2	キーワード検索	-	◎	-
	C3	お気に入り登録	-	-	◎
D 文字入力	D1	タッチペンで記入	◎	-	-
	D2	画面を押して入力	◎	-	-
	D3	キーボードで入力	-	◎	-
E ピクチャーキッズ	E1	お絵かき	◎	-	-
	E2	写真をとってカードに入れる	-	-	◎
F スクールライフノート	F1	天気を選んで保存	◎	-	-
	F2	コメントを入力して保存	◎	-	-
G ロイノートスタイル	G1	テキストを入力	◎	-	-
	G2	写真撮影	◎	-	-
	G3	先生に提出	◎	-	-
	G4	資料箱から使用する	◎	-	-
	G5	動画撮影	-	◎	-
	G6	録音	-	◎	-
	G7	先生に送る	-	◎	-
	G8	友達に送る	-	◎	-
	G9	共有ノートを使用する	-	-	◎
	G10	Webページを開く	-	-	◎
H Qubena	H1	ワーキングを聞いて解答する	◎	-	-
I Microsoft Teams	I1	カレンダーから会議に参加する	◎	-	-
J Scratch・Viscuit	J1	簡単なプログラムを作成する	-	-	◎

◎重点指導  
・活用

資料3 梅森坂小学校 タブレット活用30のスキル 段階表

## 2 実践の方法

### (1) 実践計画の作成（4・5月）

児童の実態を踏まえて、実践計画を立てる。実践を行う教科、単元、どのような場面・手立てで「個別最適な学び」を充実させるかを考える。グループ内で教科や手立てを共有するようにする。また、6月の代表授業者を4月中に決定する。代表授業者は、それ以降の実践者の指針となるような実践を行うようにする。

### (2) 代表授業（6月）・前期実践（6・7月）

実践者全員で代表授業者の授業実践の事前検討・事後検討を行う。自らの実践の参考とできるようにする。その後、各実践者が授業実践を行い、授業の様子を記録したり、プリントの記述を保管したりしておく。

### (3) 中間報告（努力点だより①）の作成（7・8月）

各実践者が前期の成果と課題を確認し、努力点だより①に載せる原稿と写真を用意する。努力点推進委員が中心となり、各実践者の原稿をまとめ努力点だより①を作成する。

### (4) 後期実践・公開授業（9～12月）

各実践者が授業実践を行い、参観メモを作成しグループ内の先生で参観し合う。グループで1人は公開授業を行う。公開授業を行う際は授業をする1週間前までに指導案を作成しグループ内で事前検討会を行い、実践後に事後検討会を行う。また、検討会の際には、日常的に行っている実践の様子も伝え合うとよい。

### (5) 最終報告（努力点だより②）の作成（1・2月）

各実践者が日常実践・授業実践・事後検討の資料などを確認し、努力点だより②に載せる原稿と写真を用意する。努力点推進委員が中心となり、各実践者の原稿をまとめ努力点だより②を作成する。

## 3 年間予定

回	月	日	曜	会合名	内容
1	4	4	火	努力点推進委員会	本年度の研究内容と計画書・実践・報告会の在り方の検討
2	4	13	木	努力点全体会	本年度の案の提案、代表授業者の決定
実践計画書の作成					
3	6	1	月	努力点全体会	代表授業の事前検討
4	6	8	木	代表授業・努力点全体会	代表授業の事後検討
努力点だより①の作成・配布・配信					
5	9	4	月	努力点全体会	中間報告会
6	12	22	金	努力点部会	授業実践の振り返り
努力点だより②の作成・配付・配信					
7	1	29	月	努力点全体会	最終報告会
8	3	14	木	努力点推進委員会	次年度への方向性の検討